

6 入院患者の転倒・転落発生率

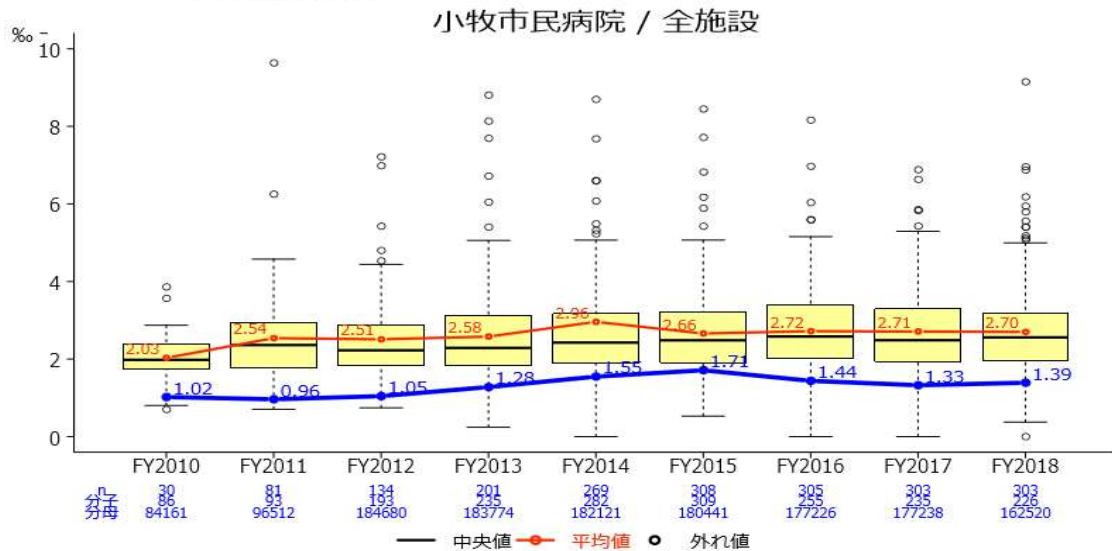
入院中の患者さんの転倒やベッドからの転落は少なくありません。

原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。

転倒・転落の指標には、「転倒・転落によって患者に傷害が発生した損傷発生率」と患者への傷害事例に至らなかった転倒・転落事例の発生率との両者を指標とすることに意味があります。本指標では、より低い値が望ましいとされています。

一般-6 入院患者の転倒・転落発生率

分子:医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数
分母:入院延べ患者数



全施設平均値との比較

全国QI参加病院平均値を下回っており、2018年度は1.38%低い結果となりました。

2017年度当院データとの比較

2017年度と比較し0.06%増加しましたが、全国平均値と比較すると低い水準となっています。新病院移転に伴う入院調整で入院延べ患者数が前年より14,700人余減少しましたが発生件数は割合に比例して減少しませんでした。

数値改善に向けた今後の取り組み

リスクマネージャー会議で転倒転落ワーキンググループを作って取り組んでおり、引き続きこの水準を維持できるよう努めています。2019年度より転倒転落ワーキンググループにて毎月ラウンドを開始しております。

2017年度評価時の改善策の実施状況と評価

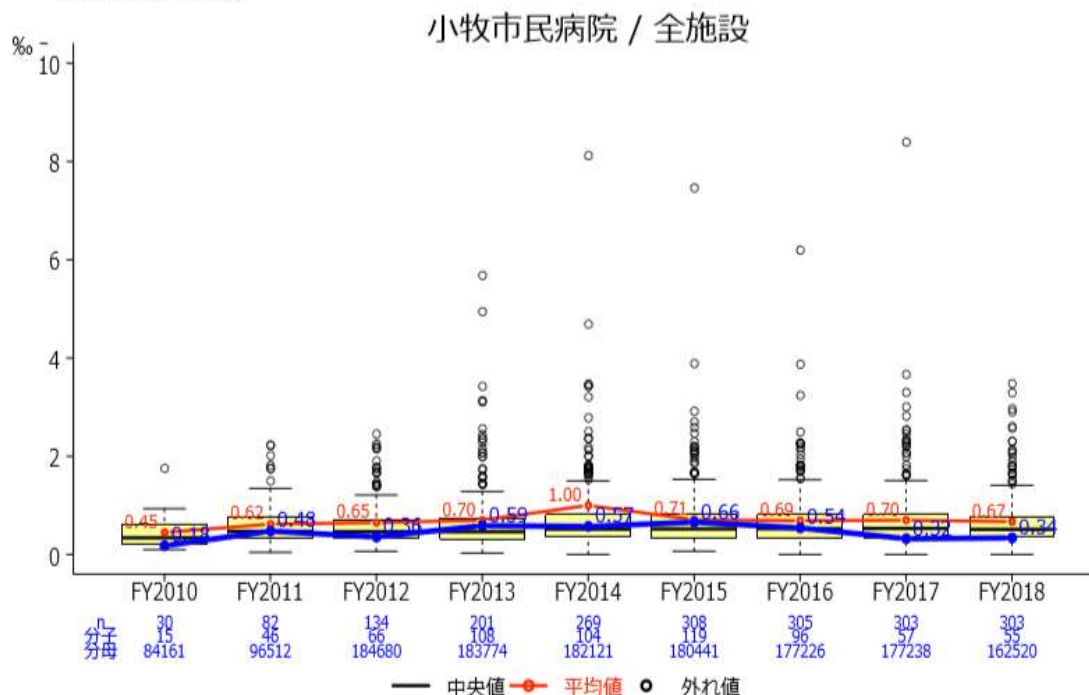
転倒転落ワーキンググループにて毎月の事例が分析され、転倒転落ワーキンググループレターが毎月発行され各科に周知されています。

7 入院患者の転倒・転落による損傷発生率(損傷レベル2以上)

損傷レベルは、「1なし(患者に損傷がない)」、「2軽度」、「3中程度」、「4重度」、「5死亡」、「6判定不可能」の6段階となります。

一般-7 入院患者の転倒・転落による損傷発生率(損傷レベル2以上)

分子:医療安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル2以上の件数
分母:入院延べ患者数



全施設平均値との比較

全国QI参加病院平均値を下回っており、2018年度は0.33%低い結果となりました。

2017年度当院データとの比較

2017年度と比較し0.02%増加しましたが、全国平均値と比較すると低い水準となっています。新病院移転に伴う入院調整で入院延べ患者数が前年より14,700人余減少したものの、発生件数は割合に比例して減少しませんでした。

数値改善に向けた今後の取り組み

リスクマネージャー会議で転倒転落ワーキンググループを作って取り組んでおり、引き続きこの水準を維持できるように努めています。2019年度より転倒転落ワーキンググループにて毎月ラウンドが開始しております。

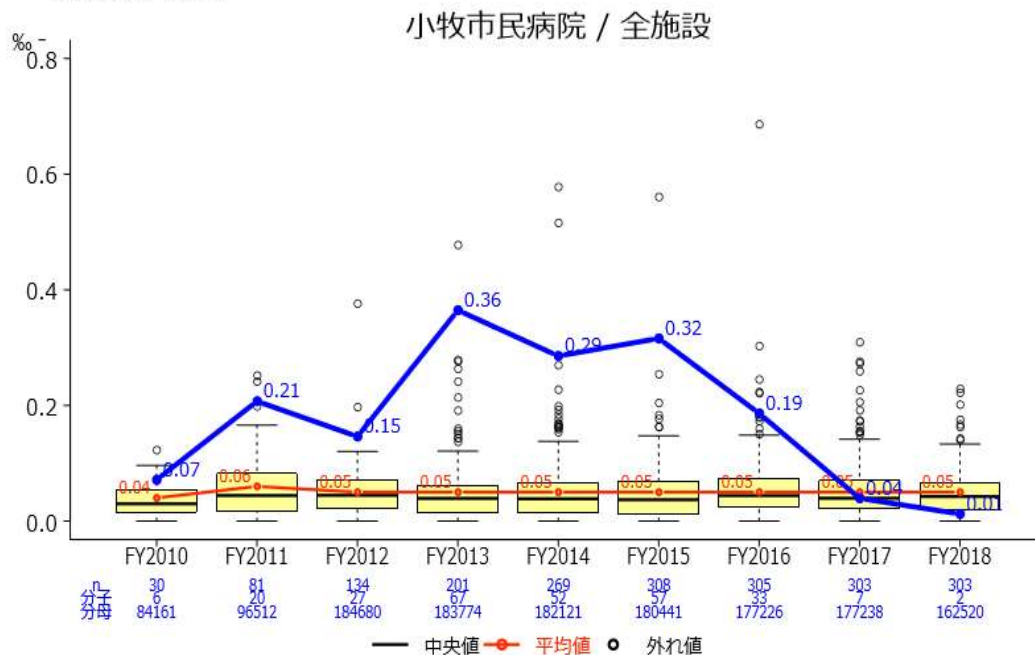
2017年度評価時の改善策の実施状況と評価

転倒転落ワーキンググループにて毎月の事例が分析され、転倒転落ワーキンググループレターが毎月発行され各科に周知されています。

8 入院患者の転倒・転落による損傷発生率(損傷レベル4以上)

一般-8 入院患者の転倒・転落による損傷発生率(損傷レベル4以上)

分子:医療安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル4以上の件数
分母:入院延べ患者数



全施設平均値との比較

2017年度に引き続き減少しており、2018年度は、0.03%前年を下回りました。

2017年度当院データとの比較

リスクマネージャー会議で転倒転落ワーキンググループを作って取り組んでおり、引き続きこの水準を維持できるよう努めています。2019年度より転倒転落ワーキンググループにて毎月ラウンドが開始しております。

数値改善に向けた今後の取り組み

転倒転落ワーキンググループにて毎月の事例が分析され、転倒転落ワーキンググループプレターが毎月発行され各科に周知されています。

2017年度評価時の改善策の実施状況と評価

転倒転落ワーキンググループにて毎月の事例が分析され、転倒転落ワーキンググループプレターが毎月発行され各科に周知されています。